

附

錄

寄稿者略年譜

(昭和六年九月廿五日現在調製
著作は本校圖書館藏本に據る)

伴 房次郎

明治四十五年七月就任・教授
大正十年十一月校長(現)

渡 龍 聖

明治四十四年一月就任・校長
大正十年十一月名古屋へ轉
大正十年十二月名譽教授(現)
著作 倫理學教科書(明治三十九年・中島半次郎と
共著)批判的倫理學(大正十年)
乾甫式辭集(昭和四年)

高 岡 熊 雄

大正二年二月就任・講師(現)
擔當 農業政策・植民政策
著作 ゴルツ農政學(明治三十四年)
農業政策(經濟全書・明治四十五年)
米國の農業教育(大正六年)
札幌區勢調査研究(大正九年)
アラシ植民研究(大正十一年)
農政問題研究(大正十五年)
第二農政問題研究(昭和四年)

室谷賢治郎

大正十二年四月就任・講師
大正十四年十一月教授(現)
擔當 經營論・商業史・文明史

中野清一

昭和五年五月就任・講師
昭和六年四月教授(現)
擔當 社會學・哲學・倫理學

品川秀三

大正十三年一月就任・教授(現)
擔當 商品理化・商品實驗

大野純一

大正十一年四月就任・講師
大正十四年十一月教授(現)
擔當 貨幣論・金融論・市場論
著作 Sozialökonomische Theorie des Geldes (1931)

木村重義

昭和六年四月就任・講師(現)
擔當 會計監査・商業算術

苔米地英俊

明治四十五年一月就任・講師
大正五年三月教授(現)
擔當 國際經濟事情・語學
著作 商業英語通信軌範(大正六年初・昭和五年增補版)

西田 彰三

大正七年四月就任・講師
大正九年十月教授（現）
擔當 商品理化・商品實驗・自然科學

手塚 壽郎

大正八年四月就任・講師
大正十年十一月教授（現）
擔當 經濟原論・經濟學史・統計學・貿易政策
著作 ゴツセン研究（大正九年）
國際貿易に於ける貨幣の職分と貨幣數量說
（大正十三年）

阿部 芳治

大正三年小樽高商第一回卒業生
前博文館出版部長
帝國生命保險會社廣告課長（現）

木曾 榮作

昭和五年五月就任・講師
昭和六年四月助教授（現）
擔當 商業英語

平尾 丹治

大正十二年五月就任・教授（現）
擔當 財政學・商業通論
著作 最新商業通義（明治四十一年）

南 亮三郎

大正十二年四月就任・講師
大正十四年十一月教授（現）
擔當 經濟原論・經濟史・社會政策
著作 流通經濟の原理（大正十五年初・昭和二年改稿版）
大西猪之介經濟學全集（昭和二・三年・高島佐一郎と共編纂）
人口法則と生存權論（昭和三年）
經濟學の基礎的諸問題（昭和三年）
社會哲學と思想問題（昭和三年）

卜部 岩太郎

大正八年四月就任・教授（現）
擔當 倫理學・國語漢文
著作 諸子抄（大正十一年）
國體講話（昭和五年）

大谷 敏治

昭和二年四月就任・講師
昭和三年四月助教授（現）
擔當 商業英語

高橋 次郎

昭和四年六月就任・講師
昭和五年八月教授（現）
擔當 景氣論・經濟地理・工業政策
著作 アールベルグスキー術（昭和四年）

——本論文集掲載順——

編輯の後に

一、創立二十周年の記念事業として論文集を刊行せんとするの議が漸くにして熟し、委員が組織せられてのち直ちに最初の會合を行ひ纂輯の綱領を樹てたのは、それでもやつと六月末日のことである。それから材料が整へられ、補充せられ、想が練られて稿となり、纂輯されて工場に廻され、文撰・植字・組版・校正の煩鎖なる工程をとほつて、こゝに漸く世の光りを見んとする前夜——今日に至る三ヶ月はこの種の出版物にとつて決して充分に長い期間ではない。しかも式典の擧げらるゝ十月四日には是非とも出來させたことの強い一念は、寄稿者・印刷者・編輯者の三つをかたく結び合はせて、この僅かなる期間にどうにか目鼻をつけるまでに漕ぎつけえた。今となつては、矢のやうに發せられた寄稿者への督促も諒とせらるゝであらうし、編輯者のとつた月餘の勞苦も忘れ去らるゝ。たゞ最上級の努力を傾倒し、幾多の犠牲を忍んでまでも初一念を貫きとほすことを得せしめてくれた印刷工場の諸君の勞を、殊記して厚く謝するを忘れてはならぬ。特に最後の旬日は、工場の諸君は午前七時から夜の十二時まで働いて仕事を急いでくれ、在札幌の印刷所と在小樽の編輯所との間には鐵路、日々二回の交通さへが繰返へされたのである。

一、本論文集は最初四百頁前後の豫定であつたが、比較的長篇の、しかも豫想外に多くの寄稿を得たので、つひに計劃

を中途より改めてかくも尨大な冊子を纂輯するに至つた。従うて經費は豫算を遙かに超過することゝなつたが、幸ひに本校の職員及び學生より成る校友會その他の援助のもとに初めてこの難關を切り抜くるを得た。校友會員諸氏の情誼を謝すると共に、この間、絶えず斡旋の勞をとつて財政上の杞懼を完全にとり除いてくれた皆米地英俊教授の名をこゝに掲げおくことは、編輯者の當然の責務であらう。

一、創業時代十年間の前校長渡邊龍聖博士が、遠く名古屋より、意味深き卷頭の辭を送り給ふたこと、および、大正二年以來ひきつゞき講師として本校の教壇に立たるゝ北海道大學教授高岡熊雄博士が特に卷頭の一雄篇を惠まれたことを深謝する。

一、本論文集の刊行にあたり、校外の諸友より數少なからぬ稿が投ぜられた。紙幅の關係上、特に依頼したものゝ外はすべて割愛せざるを得なかつたことは遺憾である。

一、終りに、本論文集は『商學討究』第六卷中冊の特輯號とされてをり、したがつて主たる編輯責任者は従前の通り手塚壽郎・大野純一・南亮三郎の三人であるが、今回はこのほか更に次の諸氏——室谷賢治郎・高橋次郎・中野清一が委員として併せ任命せられ、それぞれ快く、勞をわかつたところあつたこと、および服部政一氏が終始一貫、よく煩勞を助けてくれたこと、を記しておかう。

(昭和六年九月廿八日・みなみ)